

=====
一般社団法人日本アセットマネジメント協会
J A A Mメールマガジン (2023年度第15号)
2024.2.6発行
=====

前回のメールマガジン(第14号)で予告しました「令和6年能登半島地震、JAAM調査団・緊急報告会」を2月15日(木)13時~15時30分の間、オンライン(無料)で開催することになりました。

参加の申し込みは、JAAMホームページ(<https://www.ja-am.or.jp/seminar/2024/02/02/497/>)からお願いいたします。発災後1か月間、バトンタッチ方式で現地の調査、支援にあたっていただいた9社は、(株)オリエンタルコンサルタンツ、(株)柿本商会、八千代エンジニアリング(株)、(株)長大、(株)建設技術研究所、日本工営(株)、パシフィックコンサルタンツ(株)、(株)パスコ、大日本ダイヤコンサルタント(株)です。(派遣順)

「JAAM調査団・緊急報告会」では、前半は上記の9社の代表者にリレー方式で現地での活動などについて報告をいただき、後半は、発表者間での意見交換(パネルディスカッション)を行う予定です。後半のパネルディスカッションでは、「今回の活動から得た事柄、教訓」、「今後の復旧、復興に向けての対応」などについて、意見交換をしていただく予定です。

JAAM正会員、準会員、個人会員などの皆様の聴講をお持ちしております。

今回のメールマガジンでは、被災地域でのインフラ調査、現地状況の変化に応じた対応、支援などについて、第3班の株式会社建設技術研究所から引き継いで頂いた日本工営株式会社 道路事業部 道路インフラマネジメント部 部長 石原晃一様から報告をいただきます。なお、日本工営株式会社には4名体制で1月18日~22日の間、現地での様々な対応をしていただきました。

日本工営株式会社 道路事業部 道路インフラマネジメント部 部長 石原晃一

この度の地震で被災された方々には心からお見舞い申し上げます。

弊社は第4班として1月18日金曜日から土日を挟み、22日月曜日までの4日間、4名体制で能登に入りし、主に2級町道の3路線について被災状況の確認作業等を行いました。

能登入り前夜の金沢市街は、平穏を保っているように感じられました。様相が一変したように感じたのは、翌朝能登方面に向かう道中で立ち寄った志雄PAでのことです。ここには、同じく能登方面に向かう自衛隊や救急隊、全国各地から駆け付けたであろう自治体関係者など、ユニフォーム姿の方が多く集まっていました。その際、被災地に近づいていることをひしひしと感じるとともに、2011年の東日本大震災当時のことを思い出しました。

当時、私は仙台市内に勤務しており、3.11震災後は緊急点検、応急対策、災害査定、復興道路設計などに携わりました。この折には、技術者として使命感を持って復旧復興に関わり、文字通り休まずに走り続けました。初期の頃は気が張っていたためか、どんなに仕事しても疲れを感じなかったように記憶しています。しかし、知らず知らずのうちに疲労感が増していき、あるとき首が固まって動かなくなってしまうなど、心身に変調を来してしまいました。

そのときの経験を通じて考えたのが、災害対応は個人の力で決して成し得るものではない、総力戦なのだ、ということです。そのような思考を持つことで当時、少しだけ心が軽くなったような気がします。社内的には、全国の事業所からの支援者を積極的に迎え入れるよう心掛けました。

そのような想いもあり、また今回我々が能登入りした時期が週末に差し掛かっていたこともあって、町役場の方の負担にならないよう、できるだけ自主的に考えて動くよう心掛けました。役場の方も被災者の一人であり、ご家族やご自宅等のケアをしなければなりませんし、さらに避難所のケアなど、通常の職務以外の対応にも追われることになり、身体も心もなかなか休まる時がないと思ったからです。

復旧復興に関わるかたちは様々あると思います。私は今回の能登町支援を通じて、このような有事のときには、役所の方と同じ目線で陣頭指揮を取れる存在が必要なのではないかと思いました。我々が自治体の良きパートナーとして、官民連携体制でインフラマネジメント運営に関わり、復旧復興を支援するかたちもあると思いました。それぞれに、総力戦です。

最後に余談ですが、今回、空いている時間を見計らって自衛隊が設営する仮設風呂に入浴できたのが、東の間のひとときでした。その際、地元の方の心底ホッとされたような表情が印象的でした。能登地方の穏やかな日常が一日も早く取り戻されることを祈念するとともに、私に出来ることは協力を惜しまないと考えた次第です。